

防コミの歩き方

BOSAI
KOBE
MIRAI

消防士と教師のタマゴが創った防災授業

●逃げるができる人になる授業!

7月に、須磨消防署員と学生ボランティアが、若宮小学校の4年生たちを率先避難者に育てる授業をしました。率先避難者とは周りの人たちを助けるために、避難を呼び掛けながら一番初めに逃げ出す、奉仕と共助の精神にあふれた素晴らしい行動者です。その心を子どもたちに伝え、自ら行動できるように諭し、子から親へ、そして地域から社会に率先避難者の考え方を伝播させるための試みです。

●教師を目指すタマゴたちの力を得て!

チャンスは一度。この授業で率先行動ができる人になってもらうために、子どもたちの心に届く授業をしたい。そのために少しでも感動を与える授業をしようと考えました。「感動」の語源は論語の「感即動」で「感じれば即行動」という言葉に由来しています。人のために勇気を出して行動することの素晴らしさを伝え、感じてもらえたら、実行できる人になってくれる。この目標へ向けての授業を須磨消防署員と一緒に創り上げてくださったのが、8人の神戸女子大学教育学科の学生ボランティアたちでした。「子どもたちの心をつかむには?」「一人ひとりの意見を大切にするには?」「記憶に残すには?」などの授業手法を一つ一つ創造し、「命の授業」ができあがりました。

●子どもたちの心へ届け!

授業内容を簡単に紹介します。導入部分では、就寝中に火災に巻き込まれた家族の悲しみ等感情を消防隊と救急隊の救命活動をまじえて寸劇で表現し、子どもたちの心をつかみます。そして、命の大切さ、逃げることの

難しさや大切さを感じてもらい「率先避難者になりたい!」と思ってもらえるように授業内容を組み立てました。

当日は、迫真の演技から始まり、子どもたちの活発な意見が飛び交う熱気に溢れた授業となり、私たちも子どもたちの考えを教えてもらい、色々感じさせられ大いに勉強になった防災授業でした。

●率先避難者についてどう感じたのか?

子どもたちの感想を一部紹介させていただきます。「もし今日この勉強がなかったら、津波や地震がきたら死んでたと思いました(T)」「私は、あんなに怖いことが起きたとき、率先避難者になれるかな?と不安になりました。率先避難者になれる人は、とてもすごい人だと思いました。…もしものことがあったときは、逃げない大人に惑わされなくて、自分が率先避難者になって、たくさんの人の命を救えるように、がんばりたいです(H)」。

子どもたちは何か感じてくれたと思います。人のために率先して行動できる子どもたちが、親となり子どもを率先避難者に育てていく。そんな家族が暮らしている神戸の街になるとしたら、率先避難者を育てる価値はあるのではないのでしょうか?

(須磨消防署 佐藤 孝)

